



子どもたちの入園、進級を祝うように咲いた
アーモンドの花

Date 2015.3.31

Photo by Hiroshi Takasugi

“先生(教諭)”

園長 高杉 洋史

最近、話が長くなったといわれます。きっと余計なお世話のようなことも話しているのでしょう。わかっている、それでも話しておきたいのがお爺さんになった証拠です。さて今回は「先生(教諭)」の話です。

私がこうして園長をしているのも、私を教育してくれた多くの先生方のおかげなのです。きつと優秀で優しい先生に恵まれたのです。幸せでも、実はほとんど覚えていないのです。幸せな日々はある意味平凡で、記憶に残りづらいのかもしれない。反対に高校一年の時の数学の先生には苦い思い出があります。恨んでいるわけではありませんが、忘れませんねえ。あの時別の巡り合いがあったらと思うこともあります。反面教師という表現が頭に上りて他人のせいで苦手意識を、自分の努力を棚に上げて他人のせいにして、何の解決にもならないことはわかってはいますが、理性と感情は別物です。数学だけでなく英語の文法も嫌いでしたが、こちらの先生は薄い記憶しかありません。

人生とか学問に対する考えを明確にできたのは、今もご高齢ながら研究者として活躍されている恩師のおかげです。この先生は本当に尊敬に値します。でも学生の時は怖かったです。決して人気のある先生ではありませんでしたが、威厳がありました。

さて、この拙文をお読みのあなたは、先生(教諭)に対してどんな思いをお持ちですか。ひよっとしたら私と同じで、自分を育ててくれた先生とは愛情のある厳しい教育をしてください。先生ではないでしょうか。幼稚園から始まる学校生活を思い出してみても、恩師といえる先生が案外少ないのは、愛情を持って厳しく教育することがいかに難しいかということのあらわれです。たとえ一人でもそのような恩師に巡り合えた私は運がいいほうかもしれません。

幼稚園教諭の採用試験で、受験動機を尋ねると、自分がお世話になった幼稚園の先生が好きだから幼稚園教諭を目指していますと話してくれる学生が結構な数います。吉塚ゆりの樹幼稚園では、自分が習った先生と、担任と副担任の関係になり、同じクラスの教育にあたって先生もいます。

幼稚園教諭なら優しく対応する方はまず大丈夫です。問題は愛情を持って厳しく教育することです。それも結果は性急に求めない、余裕のある心構えを持つことです。基本的な生活習慣はあせらず着実に幼稚園時代に身につけさせたい。友だちをつくる社会性も育てたい。今年も幼稚園の先生の心は子どもたちへの愛情でいっぱい。そしてあなたのお子様への一番大切な先生はお母様お父様です。

